

足かけ10年、実地調査 三重県川越町の「光照寺」



室町時代に開基し、地域の人々に親しまれてきた寺院をめぐる調査報告書が反響を呼んでいる。服部抄織さん(旧姓・古川、平4文)と夫の健さんが10年間にわたってボランティアで実地調査し『村の歴史を未来に残して-三重県三重郡川越町豊田一色光照寺調査報告-』として編纂したものだ。寺院は町の文化財として通用する歴史的建造物で、3900点もの資料が現存。綿密な調査と写真で、その様子が紹介されている。廃寺、解体の動きが進む中、服部さん夫妻は「建造物を見て触れて体感する歴史遺産。未来へ意識的に残さねば」と、存続、保存を呼びかけている。

服部抄織さん(平4文)夫妻

「一度、見てもらえんやろか」。93年、学芸員として東京の江戸東京博物館に勤務していた抄織さんのもとに、遠縁の鮎澤つねさんから電話があり、光照寺調査が始まった。つねさんの夫は亡くなったばかりで、長年同寺院の住職を務めていた。「現地を訪ねたら発見と驚きの連続だった」と抄織さんは振り返る。



▲左から亀井教授、荒木教授と本と手にする抄織さん、健さん

第1は、未曾有の被害をもたらした1959年の伊勢湾台風で、町全体が壊滅的被害を受けたにもかかわらず、同寺院の資料等が「生き残った」こと。第2は、連如直筆の書「六字名号」(室町時代)が所蔵されていた。第3は、同寺院には檀家が存在せず、道場として地域の人々に維持管理され、住職が絶えても信仰行事が継続している。第4は、鮎澤家は明治時代に町唯一の医院も営み、地域の歴史と庶民のくらしが、絵画、写真、文書、民具、書籍などの歴史民族資料に刻まれていた一などだ。

続々と出てきた手付かずの資料を前に、抄織さんは東京と三重を往復して手弁当による調査を続け、現状の記録、採取と出来る限りの聞き取り調査も行った。96年、結婚したカメラマンの健さんも加わって2人3脚での作業に。2人は近隣の四日市に転居。この間、依頼者は亡くなったが、支援・賛同者の輪が広がっていった。そして今春、念願の自費出版にこぎつけた。しかし地元の自治会は、住職のいない同寺院の解体を決定している。

発行後の反響は大きい。「あの貧乏寺に、そんなすごいものがあつたのか」「町はなぜ建物や資料を残さないの…」自宅の電話が鳴りっぱなしの日もあった。2人は任意団体「ビルディング・ブリッジス」を設立。マスコミ等を通して建造物の町指定文化財化と、資料を含めた建物の保存活用を粘り強く川越町に訴えている。同町議会議長へ署名を添えた保存陳情書も提出準備中だ。「行政を動かすには地元はもとより全国的な保存の声が必要」(健さん)と、この紙面の読者にも賛同・協力を呼びかけている。

抄織さんは在学時代、人文学科で日本古代史を専攻。ゼミで荒木敏夫教授(文学部長)、学芸員課程で亀井明德教授に教えを受け「両先生の温かい激励は支えなった」と話す。荒木教授は「使命感を持って素晴らしい仕事をしてくれた。今後も見守っていきたい」と話し、亀井教授は「学芸員は行政機関で仕事をしているのがほとんどの中で、彼女たちの活動は行政の外で、まさに戦っていると言えるのでは」と称えた。同書(本体価格2381円)の収益と寄付金がビルディング・ブリッジスの活動と保存の基金になる。購入はTEL&FAX0593・53・5561へ。

URL <http://www.h4.dion.ne.jp/~fchannel/>で発売後の経過も発信している。

英語の学習10人10話 第6話 スクリーン・イングリッシュの勧め 塚田三千代(商学部
兼任講師)

最近、ステレオ・ヘッドホーンで聴くCD英会話教材もたくさんあり、DVDで好きな時に映画も観られる非常に恵まれた環境になりました。口語英語はどこでも学べます。高校には「オーラルコミュニケーション」の科目がありますが、私はこの科目で使用する文部科学省検定済教科書『SCREENPLAY』を共著で出版しています。これは映画で生きた英語の表現を学び、使えるようにプラクティスする教科書です。



私は本校の教養科目の英語で、「スクリーン・イングリッシュ」と「リスニング」の授業を担当していますが、映画の「生きた英語で使える英語を」をシャワーのように聴いて、話すことを目指す授業をLL教室で行っています。取り上げる映画は、たとえば『ティファニーで朝食を』、『ザ・ファーム:法律事務所』、『ウォール街』、『シュレック』、『永遠のアフリカ』、『Catch Me If You Can』など、通年で10本以上になります。年間を通してマラソンのように英語のリスニングを続けることが目標ですが、リスニング得点とセリフのシャドウイング(聞き取った英語のすぐ後について声を出し、影のようについていく練習法)でその成果を競います。マラソン途中の苦しさを超え、やがてナチュラルな英語を自分の体で感じるようになること。これこそが映画で英語を学ぶメリットなのです。

今さら言うまでもありませんが、映画の英語学習では、老若男女を問わず、ときにはスピーディーに、ときには物悲しく、あるときは晴れやかな声が、表情や身振りと共に映画のスクリーンから飛び出してきます。ほんとうに素晴らしいお手本が映画にはあるのです。映画は感動とエンターテインメントと生きた英語の宝庫ですからね。だからこそ、ムービーで英語学習。

By all means, Movies !

【ニュース専修11月号10面】